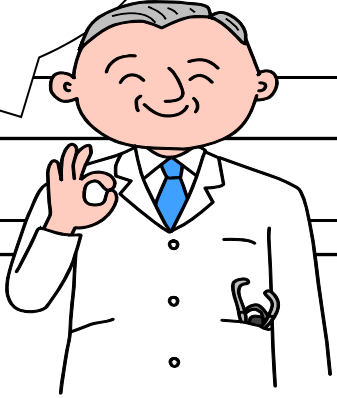


インターフェロン療法を受けられる

様とご家族の方へ

主治医() 病棟()

	1日目	2日目(退院候補日)	3日目(退院候補日)
安静度	通常どおりです。 弾性ストッキングの着用をお願いする場合があります。		
食事	通常どおりです。 		
内服	・夕食後からレベトールの内服を始めてください。 ・レベトール 朝()カプセル、夕()カプセル ・発熱、疼痛時()頓用で、使用します(6時間以上あけて一日3回まで)		<p>退院後の注意する点について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●風邪を引かないようにしてください。 ●アルコールは控えてください。 ●疲れを溜めない様に気を付けて下さい。 <p>以下のことがあれば外来受診して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●打った覚えがない皮下出血がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●尿が褐色。 ●空咳が続く。 ●むくむ、だるい。 
処置	主治医が注射にうかがいます。	朝に採血があります。	
清潔	シャワー、入浴可能です。	37.5度以上の発熱時は、シャワー、入浴は避けてください。	
排泄	通常どおりです。		
必要書類	入院診療計画書/入院オリエンテーション	退院指導計画書/次回外来予約票	
その他	医師からの治療説明があります。	退院時処方	

C型慢性慢性肝炎は未治療時10~30年後に肝硬変肝癌になって行きやすい病気です。患者様は今回、高ウイルス量、群別型と治療抵抗性の強い状態のため、今回の治療を選択した状態です。今回の治療でウイルスが消えなくても発癌率は10~50%低下します。

ペグイントロン、レベトールの副作用として、インフルエンザ様症状(発熱、関節痛)、白血球減少(感染に弱くなります)、貧血、血小板減少(出血しやすくなります)、脱毛、タンパク尿、視力障害、難聴、甲状腺機能障害、糖尿病、食欲不振、嘔気、腹部膨満、発疹、皮膚掻痒、後、重篤な副作用として間質性肺炎(空咳が続きます)、溶血性貧血(尿の色が急に褐色になります)、うつ状態があります。これらの副作用によって薬の投与量の減量や中止、また、重篤なものの場合その治療を優先することになります。

何か症状がありましたらお知らせください。 兵庫医科大学病院 内科(肝・胆・膵内科) 2010/08/06 改訂